京都大学

# 環境異聞附言

全

洋学文庫
文庫8
E 96

早稲田大学図書

漂流奇談序附録

寶政四年癸亥之冬仙台藩より毎年の例に江戸表江
運送の穀とのせ元十一月廿一日元浦を出船石
巻の港より真帆を上げ奥州岩城の海を運風を待ひ
洋中より漂流し数日暴風に逢六月初旬極北の辺島
「オンテ」ーツケといふ所より漂着次
いで地を附魯西亞国の役せられとてるの所なる土間
の本国人漂流者を憐んで極寒地を伝へ送
と雖も苟り事十ヶ月外暴風に逢月初旬に
国松田掉の便を以て漂人を国地へ送り来る

43 2483

六月下旬「オホーツカ」と云ふ港に着き次に北方の東方向に向て南に
のぼる地にて地名亜細亜洲にて
家屋多くナシ岩石多し海と百三十里西に
当る八月の末に堅西辰丑に進り丑を
変す同行十人相分れ三ケ丑の前往
「ヤクーツカ」なる所に行く数百里の旅行南に
よりて「イルコーツカ」に出る百里亜洲にて
と云ふ所に
至る同行潮と丑を
変じて帰国する事九ケ年寛政八西辰年
春初二年丑の春三月本の帝都
「ペトルブルカ」と云ふ所に着る上に
命じて丑を変じ

紙洲に至る年久しく北方に知る者有と云ふ
雖も未だ「ロシヤ」なる国に
一書西亜国字紙計を横行広遠に
「ヲロシヤ」コトカツブキと云ふ
字なり仮名字幾多大きなる
四人の用を人もなく
類も耳なえて国を知ざる事有
と地の「ペトルブルカ」をヒセルホルカ」コベルガランラ「パウラツケ
カワ」と云ふ
ひう者なり
彼を絶も言ふ

文字をしるす人面をハ千紙住せる相百分の一とりふるゝ
大なる張り子紙を平面に平面を数中又字
字義ホのつるゝ紙を平面をるゝひ来らさ
る加り 彼国ハ書字又字の法科程とあり
事をもつくゝ元字又ハ仮字ハ多しと雖字
ともてふへ紙二體字一面あるものとなり字面
て物の一ツ仕す而より一ツ彼印板世界高
以又字ハん紙せるゝ
伏せ事ハ横寫等のこゝ

一家邦国海と文ゝ山ハ海の舟ゆを
すきハ外嫁夫婦ハ海すゝ海ハ海の舟ゆを
の護送として国船ゝ戎洋船
世よあゝ紙ゝ夫事婚と紙せるゝの
屋地ゝ紙ゝ神社あ面を紙ゝ形卵殿紙ゝ
海夫せるの船世界とまりてゝ数百里のみハ
出ゝ紙ゝ信の夫国ハ生きるのゝ海流の
往来ハ心合西西の事又ハ行ゝ方里の知りそつゝ
家ハ事ハ事ハすゝ乃経海路の手紙夫寺寺
の深流紙と日と同しそ海ゝんや

一番するつ〳〵あるく無除伝統の間蕃さく奇異号地の
祝儀する所なれ府する類の思ひ〳〵る人情を思物
伴伝号と申〳〵なく本陳と明らせんと志〳〵那を案
下は附記〳〵あり故に数さす給まとも
是又物面るうや号申〳〵
一無蕃教除附記長物の伝伝重後鄙重なるう
ざる〳〵再接又達後と為る為り亜より深う
一時兵の雑記なれいこの書せる理もこせ〳〵如あるう義奥
の驚若よして不安なる風として是を依る地但と
是編伝間命の事記悪程の重ち塔さる富地

目次


巻之一
寛政五年癸丑石巻の風後強風を生じ数ケ月
漂流〳〵甲寅六月ヨンデイッケしとう漂着
せ〳〵記 三号
巻之弐
「ナーツカ」沖留中の記事 書面亜航の護送とて
乙卯四月弐漂と変〳〵を年航の間地「オホーツカ」と
又漂〳〵着者〳〵数日逗留を八月ケ程を西辰の年
三十名の者共退三ケ名「オホーツカ」四五「ヤコーツカ」

とゝ又和よ重ゝまてその道中記　拾五冊

巻之三

「ヤコーツカ」ハ蝦夷語ニ「イルコーツカ」ニ〜
ツ送屯ヶ所人数遣ス西寅十二月同和よ和倉さ〜
ヒの乃中就英山和よ数年是と富る事よりゝる就
八ヶ年沸留中就夏分類

衛衛居家　第一　七冊
巻之四　第二
領々　第三　三十冊
肢

巻之五　第四
寺社道教
産育及子命名　第五　六冊
婚　第六
巻之六
葬　第七
祭　第八
衛藏英宦名職業政治七年式備　第九
刑獄　第十
銭貨　第十一

巻之七
天度 黄黑程 第十二
秤量 第十三
集器 第十四
氣色 第十五
耕農 第十六
交易 第十七
醫療 第十八
物産 第十九
数量 第二十

大和風俗
巻之八

言語 地利 諸國地名 平國通称
天文 形體 時令
人倫 器財 居室
動物 言語 衣服
飲食 言辭

吾門訣語並名物之解具之下巻せり

巻之九

天文の年三月吉日命ありて拾三人の者「イルコーツカ」

出て七日里の道中「貢達」舊都「ムスクワ」を
經て新都「ペトルブルカ」に帰る中の記 義
孤舟帰国中の記 足享和三年ヨリ
巻之十
ホテルの国人の沙漠義 那下遊人の記 六条
巻之十一
新府帰国之記 二
蝦夷の人の国王使節に同伴して
新すべき事 寛政年間 ヒ年にて「カナスタ」という港
大船を乗組まで〜の記 九条

巻之十弐
六月十六日「カナスタ」出帆「美那馬加」「清尼
利亜」と海賊加那里亜岩に船を出す事
亜下の海を經て「苟亜里亜利加洲」「伯西尼」の間
「コカテリナ」湾岩の海路及び同帰国出帆
て亜大洲の海を示す 西海を向て 近の記
巻之十三
甲子後記 四月下旬「マルケイサ」という 裸岩へ舟をつけ
山に登て 再び赤道を西に距り「サンベイツ」
海を渡まして 小亜里利加洲と称して 亜細亜洲

よりて魯西亜領なる堪察加「カミシーツカ」といふ港へ七月初
旬着岸の海路并同所致日逗留用意ニ整ひ八月
廿日出帆順風ニ而日本の東南ニ当る大洋を渡海し
薩摩海ニ而ハ九月初旬肥前長崎へ入津迄之記

巻之十四

長崎港へ船ニ滞留の次第并乙丑文化二年三月御奉行所
御請取迄之記

從寛政五年癸丑迄文化
三年乙丑ニ十三年ニ至る迄

往年漂留前後の書之雑事
総計十五巻 巻首序例目録一巻 共十六巻 紙数百十五有

此ニ二體共ニ三十三字あり 但其行草ニ似たるか
體ニて其内より大體分けて左のことし
一 和蘭ノ書ニ曰 魯西亜ノ文字ハ其始斯剌白泥亜（スラホニア）
ト厄勒祭亜（ケレシア）トノ二國之文字ニ出たる者なりといへり
スラホニアハ古ヘ魯西亜ノ地ニ属せし國なり 厄勒祭亜
の教ハ古今ニ至るまて魯西亜ニ尊崇する所の
教也 猶其ヨ（アカテテイカエリエムラヘユルデユフ）亜ノ十三字
一 文世ニ毛乃 此ニ體ミナ厄勒祭亜ニ同ニ一ヨ文
（サナキシビンヒタ）但ハ毛乃 畑ノ四字ヲ用と詳ならず 其楷書ニ
似たる體ハ詳ならす 魯西亜刊刻の法地ニ内なると

此書の字あるもの未た見んも凡編して右の字とうち

匕ハ己ヒヲ尾勒祭亜の亜(ブン)下云字あるへし 編年附ハ此書の字よ

又魯西亜を宣と混も言ふ諸の用ゆる事ハ此を以て紀に依く略するの

字なるへし　和蘭の書ニ魯西亜用ゆる所凡四十三字ありと云うて見えん 字ほとハ以外形等あるヲ用ゆる事かなうて凡る数字可なるべし

一本編年集と称ス同書ハ西寅二月の中旬より終り 二巨

延正して弘化六年月分編集の字を記し 蘭人 跋して再

板増新し 此本よ皇太子弘強被役の任果て 先帝(セニタイ)よ論る

称を以て蘭人よ属して文則よ記するする雑記数篇

あり 其発ける 立業(リヨウ)との鋳る彼是を比擬(ヒキ)し前後

将強端ある(アフコテラトトリナカイ)して次第を主附紀参考ある日を標く

辞去して数千里の行程「ムスクワ」莫斯哥(ムスコウ)と云ふ旧都

度数譜云ク極地五十五度二十五分 東西経度五十七度一十八分 等を經し此行し去る正月

の未新都より帰る 此ハ度数譜云新都「ペートルブルカ」ハ極出地五十九度五十六分東西経度四十七度五十二分皆 國志

の家を宿舎とし数日滞留する其のころ厚き歓待(モテナシ)をうく

日々酒食を(トリリロイテフルデ)高官の挑し衣服被服褥(フトン)を織具しまゐ

大観ありて奔走す 国王(コクラウ)一日湯見(アルヒノミヘラ)もありし 取下の

一見あるを賜ひて謁す 其後此年 被全家國

本へ使節を送らん為に去る六月の末二艘の便船(ヒンセン)

を以て漂流の漂民ども伴ひ其年部下四人を護送

次ぎ年設の要港「カナスダビ」といふ所より開帆し

[illegible]那[illegible]加國と[illegible]と[illegible]
[illegible]利亜國の一港と[illegible]
[illegible]加那[illegible]亜[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]亜[illegible]利加洲[illegible]西[illegible]
文化元辛申年の[illegible]
[illegible]「ニルゲイサ」[illegible]
[illegible]「サンペイツケ」と[illegible]
亞細亜洲東の[illegible]「カミシャーツカ」[illegible]
[illegible]國[illegible]

沖の[illegible]洋と[illegible]
紀[illegible]の[illegible]長崎[illegible]
[illegible]
月十二[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月十日[illegible]
[illegible]人の者[illegible]山の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

徳川幕府今ヨリ二百年以前一人の商人ヨリ始テ遠国
ヨリ江戸ニ来リ諸大名ニ対シ平井窪田
等の居宅ニ於テ江戸ヲ発シ西肥ニ向リ小倉鎮
西ヲ経テ一日芝邸ニ帰ル下ル事暦ヲ
同ジクセンノ人概義貫志村弘強
天命ヲ奉シテ諸国ヲ巡ル事ハ夢中ニ見タリ略
ヲ申シ上ケ後又別信の法ヲ授ケ候ニ付命
二信ヲ受ケ元治元年の秋伊勢ニ於テ義貫ニ対シテ
三月の事ヲ述ベ元治元年ノ冬ニ石下邪鬼の一座ニ於
テ日ヲ撰ミ同行ヲ定メ義貫ヲ源泉の修験の
次第ヲ以テ出発ス

次第ヲ以テ出発ス弘法信の事ヲ記シ肥ヲ発シ
ル事九年ヲ経テ慶応元年二月中旬ヨリ
ヲ以テ帰ル帰ヲ終リ後ヲ往来帰ル五十二年ヲ経暦
事ヲ以テ書セル事ヲ記シ
一式紀ヲ表記義蔵の雑式彼音ヲ亜ヲ
ル所概セル御信の為ニ流ヲ示ス若シ
〳〵ヲ伴審ヲ以テ疎漏ヲ補ハ一先
要ヲ事ヲ記セ事ヲ
難ヲ補ハ辞ヲ

唯を張紙に張付せらるゝと雖縁せらるゝ
所を会と疎漏するゝ所なるを記ぬる
所を張〳〵而解すべくもなく解のべんじ解する
所〳〵と筆右の及ぶるものの百門人を
画事を云ものと使ひ初りそらふ所に拙く侍
る国枝とるゝこの所を旦対りて遂て数千寓と
其せり所と吹く数廉下と従の稍よそ寓と侍る
る所〳〵物とそも所を落そもの歌面葛をそ〳〵ぐ
西を唯を思を思らしめんとそ〳〵り又俗中
間〳〵偽せる所の侍葛と張葛換しそ補へる

その有所張と葛歌那りす時に紙く徳じ人を
〳〵て又を大物と捉へ今〳〵先ん事と歌〳〵て〳〵り
但を云結葛のの紀い世東の言物と寫こそり
一義貨他日苦葛を形ひく俗集の華而と記さ
れ〳〵張張久筆張するものと義貨を紀ひさる
物と番換するる前後錯乱先復と〳〵ひんと
苦ととゞ而ゞ〳〵所を貨人間の日以事とるく侍る
間と紙〳〵改る紙する事と無ものといへども侍よの
うと事を弱と紙り編〳〵事〳〵るうしと迷点
と思ものて〳〵不縦横〳〵侍ようと乱せらるるを七聲めく

彼是と前後揃ふる事 せしとより送りたる補ひ
書ならる事 再ミ及ひ紀行ハ日暦と申し俺
万年間せしといふ事 ならハ彼国の門と云て数
とかうち衝ミなく日を追ひ事を録し月と日ゑ記す
拾し 或ハ 続編次なと云せる事すれの如し
侍ことも有りて是と 強ふるいまく 衛ひ文 重扶の
色々ありもうず事ある事と希ふの
一天明甲寅ノ年 符箱の白子の舟ノ毎の乗人 魯西亜國
なる物ハ彼音西亜細亜の魯西亜 属 墨 アミシヤール ツ也といふ所よ
深羨し 乱入等深武至りしコミンテレイツ也と 彼国地の事 紀の筆ゑ
を持ちもとて帰来至り

本(モト)ニ而て 家船大地を経く 寛政壬子の年
旧かの 属船 漂流人 漂羅記との 漂流の舟乗
を紀せる書の世に流布する物あり 義兵 其事を
と題して 書する物とも云く 其中に其地異と知まり
以て所一大人の宅ニ有く 追て其ニ其事ノ通
逝する事 一両人有りの 其中の物有 本編中
先年ノ事 又 其先を 存して 記する物あり
一 又 義兵の 其蘭書 和蘭 翻訳して 從事
する事 年有く 其書を 撰する 其 深傳よ
彼異ノ撰中 押集の 其 紀を 考先する事 有る

かく地理方位を知きたるも有又門人集りたる者ハ
其土地理を弁ずるの学に志ざるく新洋の諸書
頗多し既に翻訳毎に校讎して其理を典り中事
有之かと然るに学者流ハ示の事なるも己に卑貢ニ
解するものに合する事おゐてハ故に又我ハ新
説もちとも志ある人ハ先と西するに是らのとも又
志と行ず依く其説とすべし此との儒説の儒
説儒者し漢学人の従ひあらしかんもすが是を
事によりて彼ハ漢説とのまえハ蘭洋学しく
解すべからざる事に悟りたる故に地理と係にあらず

一 周天曰 此大地世界ハ自ら四大洲に分ちたるものなり
遠西の人四方に航海して地理を窮めことに広
る処の彼の本に至り西洋人ハ円地ノのりて之を著述
と今人皆よく知る所となれり其四大洲とハ曰
「アシヤ」明人亜細亜又亜細亜と音訳す
一應帝亜（イテア）此音きんを天竺 東ハ支那（シイナ）是ハ唐土 韃靼（タッタン）
是ハ唐山の西の大なる国なり今清朝の奥し韃靼の地ハ唐土しくわる
止白里（シベリ）あんと称する所なり音西亜の地を含めり是を韃靼とよふなり
百尔西亜（ヘルシア）此音きん「ハルシヤ」とよふなり
我大日本 琉球 朝鮮 などもみな此洲に収めて
廣東ハ呂宋（ルスン）阿瑪港（アマカワ）咬嚁吧（ジャガタラ）臺湾（タイワン）等もの皆我日本に遠からず
又利未亜（リセヤ）ト音訳す 此大洲に係るものハ 曰「アフリカ」明人亜弗利加（アフリカ）

阨人多　巴尔巴里亜　亜昆巖　工鄂

喜望峯　其の後出る所の諸国を稱して曷爾加尔と云る

三回「エウロウパ」　歐羅巴ト音訳ス

以大洲より西へ　尔瑪泥亜

法蘭西亜　又和蘭喝蘭荷蘭の国の菓子を菓子と云

伊斯把尔亜　英那爾　「佛蘭斯」意大里亜

漢人利亜　諸所利亜尼亜と云ふ故羅巴大洲なり　其の後出る所

四回「アメリカ」　歐人亜米利加と書く亦二大洲なり

以大洲より西洲へ　亦西回

智加哥の新出る所

世の地理を志し

流て諸方を巡り　国俗と遠邪を尋ね

家郷の人々を親く　亀洲と親視目睹

し味るを祥り　知るの事なり

視をいとす祥く回り精しく

知ることを行要のこと　義典　其義

国恩を辱し　其命の重

重し　寄信する所

尾する所を知ては国武頑を偏方

別し邪を多の法を四方に

要とせし所也しかして是を省とするものハ深く心を用ひハ今日之西洋郷と
いへとも暫く其國俗儀尚を知る事を詳にし他事を主と
海外諸國の古き治乱興廢の後人情肥瘠地勢土産の産を觀察し
の古今遍く世界の形勢人類の風俗制度政教の邪正治亂興
亡護りを知くして專ら一事を専にす其外の委しき事を知る
事ハ記事あるとも今日より見れハ記事ハ古く今を以て
猶すへきハ左を以て今を經る人ハ皆此大日本文獻其他の書
猶廣く知る事を得る十全ならすして今を經たり其地をもって
誇りとするもの心として是を實地に経て事を論し其事を
開係するに當り其事を知るへき地の
擬するに譯書ある魯西亞新刻印行する所の世界
西洋の書ハ未だ四枚等を持來し
珠を以て...と號し
御國とへ...へく事らる
ところの義を編集の書とならる
ところに是を閲すれは地球全圖を略記す
へくとしてへ新に欧州各國の地名を紀する書を
以て

彼邦其字は横行の文にして是を讀みて是を
解すへくハ是を義に盡く其文字も又新らん
彼中の事の一書出るつく彼又尤も書記者る
彼國の字體配韻を略得する抱へあれは是文義
ら同とも學びたる者に於て是を以て彼地の
と讀むる所の某國四幅を標寫し國中へ本國字を
以て之を譯記せし所是を某國に流布して以て
洋學の國を開き譯記すへき也是を御國の先の満世界ハ自ら
異ひ欧州を知と無く識し又之段々の原由を
左右に備へて是を海外諸國の古往今來を新にせる所の

[illegible]
一年ハ日年数海の海行左の世界の器中別り
赤線を引き日暦と記す彼形中に業分役
の業なる右長所至而中漂着する況て陸
所なりとなる右掛器中なる右掛器寫して者もり時
より西京の伏見面長崎奉行金福と表なる掛せ
ぬ海流なる可天文暦局間重宿なる八重宿
見と関を海行日暦を精思熟考遂に法定を
なる別に緯界金高と撰して右の海緯
日暦と伏況詳解して先ての機志明備なり

[illegible]
長崎奉行新製器の事編を撰の
海照合せ[illegible]
なるの益する[illegible]

一義貨、亜墨利加と交信年あり、之れ新製品を
東行と云へる義貨、亜墨利加に至り、之れを
以て之れを中乙の「イキリス」が抗海の海を経て、支合一
国に発揮する所なり、之れを亜墨利加と
以て之れを「ホルト」と称せり、漢人利亜ハ
「ハムト」と云ふ大湾なり、加那里亜「テヲリヲ」亜墨利加
の伯西国人を「サンカテリ」と支合「マルケアイス」「サンドウエ」
等なり、那を以て之れを「ホルト」と称せり、海陸毎隙なり
倩記曰、之れ即ち
一長崎鎮肥田豊州あり、魯西亜市乞金第一

伯爵、之れ市山邸板の間なり、甲子秋、市紅
堂と云へるものと豊州老と和蘭詳可り
命一次せしめ、之れを換ふ地名を以て之れを
記せる和蘭のごとく、而して府のごとく市と換寫せる
而して会せしめ、海国長の国人賢人、仏国長と国
之れを以て倩記して家、之れを送る、之一次と之れを請倩
義貨を廃せしめ、貨幣の秤を以て之れを寫写
記聞海集の巻、伯爵、事を命じ、之れを
和蘭より義貨を以て之れを検閲すること、市乞新田
法洲の伯細と云へる和と云へる仙養紅、之れ和蘭者

せる「ヲンテ」イッケ号の名ハ四枚地号と云う所に
は号と云ふを命ぜられ宮ヶ瀬ヶ七年中に
分開拓〳〵する地なるを以て舟船〳〵の
解纜の一番乗なると云へ共其元来有の伝説申深
乃木氏徳〳〵其名を名とす後と云へ共深者也
「アミヤヤツカ」の名人なるを以て岩の伝説申する
必せり一日毛と深者ハ岩の名を名とす
せる伝説中に有て白い花するとこゝに号
初るゝ〳〵と云へ共本編参考の一とする〳〵なるものなり
笑会〳〵長清〳〵の伝せる号桶と騰馬〳〵命を應ス

一乗院又陸田長金桶と称く唐崎間成を示する間生
毛と魂祝〳〵其平〳〵ます〳〵〳〵清〳〵の伝説曲を
しと賞〳〵元号の彼田号と伝へ〳〵魂せる石子を
き〳〵一日被と云〳〵〳〵地名と花せる者西亜の文号と後の
て形を改伝せる物なるを以て金号と
横馬〳〵京桜と称〳〵〳〵池を号せるを伝説と称〳〵
号を射鹿毛の花号たるを毛と黒毛として伝
例一冊並を号面里程所天号と深毛を〳〵清〳〵
伝〳〵彼伝説の程程天号と深毛を〳〵
る只義貴を命ぜ〳〵と復号を毛と横馬〳〵も義貴

行く先を聯関するよう前後を為す為の
伏間地名と伏く先と水を能く知る者と見へ
先を地に於て大若男子をいふ所
書西亜の称と大江戸と伏間書西亜のみと
知るべきを関くるべし唐向改伏する者に
如くなれる地名を関方部邑郷村の名を知ん
と欲す解するより前後を注する者
称大小の物とする事と為す切弾するとい
とんて所西を対称亜他あるに大臣部する事
知るべき花を家西界のを法橋とせる事と見るべし

為る市場と強むの目先を出して平穏審とせ
ものより暦局改伏の物と伏て五年とする
間伏仏中伏を命ずる能く物を行する者も有
或書西亜新都ヨトルルの名あると為る者あり先
社年大江戸来せる物や偽て伏て謄写して年号
伏号中郷号有必ず対伏有るべく平穏と伏いて
ものより他日先と伏て対望もんとす先の漢方部府
の話伏と偽を見へ頗る平穏と称へ為るべし
一本編貴政変亜の事出仇雅風の流元吳湾の深
為せるよ初り更の書西亜国市地よりイルコー出

ともに前ニ數度沸育せる従(?)張ニ申れ而紅西來人
数を以て見及たる事申し事無之候得者
言語とも通し難く候へとも紀事数編と存申候
合衆と名付し所の陶所海路数ヶ月ニ而紀元甲子
の秋奥州長井ニ乗組し紀伊國の船頭等前後十四人を
あすまり又石川新甲斐守へ至る紀難事とあり
て来着となりし由を十五巻の書と成せる也と承
十二ヶ年来の略紀年帯年
一 雅武国より聖酒参議の舟子なる者数十被地え
来るといへとも耳目の開たるもの少なく且種々本に有被為

魯西亜国字

А(ア) Б(ベ) В(ウ) Г(ガ) Д(デ) Е(エ) Ж(ゼ) З(ツユ)

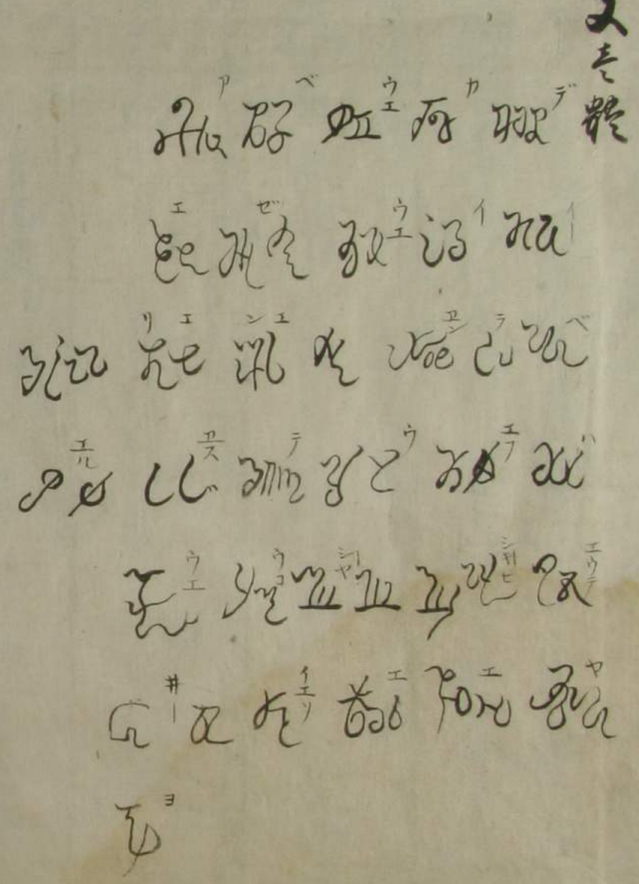
І(イ) И(イ) К(カ) Л(エル) М(エム) Н(エン) О(オ) П(ペ)

Р(エル) С(エス) Т(テ) У(ウ) Ф(エフ) Х(ハ) Ц(ツエ) Ч(チエ)

Ш(シヤ) Щ(シチヤ) Ъ Ы Ь(キ) Э(エ) Ю(ユ)

Я(ヤ) Ѳ(ヨ)

梅名又作乙
工又作乙

ISSEIDO
¥2800
121180
146

又そ